

研究データ作業部会 活動報告 2022

JPCOAR研究データ作業部会 結城 憲司
(九州大学附属図書館 図書館企画課)

研究データ作業部会(コミュニティグループ)

【JPCOAR活動方針2022～2026年】 重点活動項目2. 会員機関が公開するコンテンツの 多様化と利活用 <コンテンツ>

協会は、会員機関のリポジトリが擁する学術論文や研究データをはじめとする多様なコンテンツについて、総体として、また、種類ごとに、収集・管理・保存のノウハウを共有する。

また、各種識別子を含むメタデータの標準化や FAIR 原則への対応、流通促進を通じて、会員機関構成員の学術成果の普及・利活用を促進することにより、新たな成果につながるようなエコシステムの形成につとめる。

研究データ作業部会(コミュニティグループ)

【2022年活動計画】

(ア) RDM 教材作成

- 国内のニーズに即したRDM教材の作成について検討する。
- 現行のRDM教材の利活用拡大の検討し、改善を実施する。

(イ) RDM 事例形成

- 機関向け RDM アンケートに向けて調査項目・調査方法について検討し、実施する。
- AXIES-RDM 部会等の外部機関と連携しながら、プロジェクト参加機関間の情報交換を推進し、RDM に関するイベント等を企画・実施する。

1-1.研究データ管理(RDM)教材の作成・公開

- ・教材「研究データ管理サービスの設計と実践」第2版(2021.2.10公開)

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/607>

- ・教材「研究者のための研究データマネジメント」(2020.10.30公開)

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/294>

- ・教材「情報基盤スタッフ向けの研究データマネジメント」(2022.8.19公開)

※「研究者のための研究データマネジメント」を元に、AXIES-RDM部会のメンバーにより、情報基盤スタッフ向けに再構成・加筆したもの。ファイル構成:「00:概要と背景」「01:研究前 データ管理計画(DMP)の作成」「02:研究実施中 データの保存」「03:研究実施中 データの収集・分析・整理」「04:研究後 データの公開」

<https://doi.org/10.34477/0002000210>

【参考】

- ・「日本における研究データ管理教材の開発経緯」『情報の科学と技術』71(4) (2021.04.01公開)

https://doi.org/10.18919/jkg.71.4_187

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2022

機関リポジトリ推進委員会

JPCOAR研究データTF

JPCOAR研究データ作業部会

国内向け教材「RDMトレーニングツール」開発

2017.6「RDMトレーニングツール」公開

2017.11-2018.1
JMOOC/gaccoにて「オープンサイエンス時代の研究データ管理」開講

支援者向け教材の開発

2018.8 教材「研究データ管理サービスの設計と実践」公開

2018.8-10 教材試用プロジェクト
(参加機関18)

第2版の開発

2021.2 教材「研究データ管理サービスの設計と実践」第2版公開



2019.9-12 学認LMSによるオンライン講座試験運用(参加機関22)



2021.6 NIIが学認LMSを正式運用開始



2022.9 学認LMS RDM教材改訂

2016.4 NISO入門書「研究データ管理」の日本語訳公開

研究者向けの教材開発

2020.10 教材「研究者のための研究データマネジメント」公開



2022.8 AXIES-RDM部会制作教材「情報基盤スタッフ向けの研究データマネジメント」公開

1-2.研究データ管理(RDM)教材の学認LMSでの提供

🔄 研究データ管理サービスの設計と実践



講座内容

研究データには、どのように生成され、保存され最終的に再利用されていくのかといったライフサイクルがあります。この講座では、研究データのライフサイクルに沿った形で、サービス設計や研究前の支援、研究中の支援、研究後の支援、そして日常的な支援について学びます。

学習時間の目安：約5時間

第1章：序論（学習時間：約23分）

- 1.1 第1章の概要
- 1.2 背景
- 1.3 研究データとは
- 1.4 研究データ管理とは
- 1.5 研究データ管理サービスとは

🔄 研究者のための研究データマネジメント



講座内容

研究支援者としての目線から、大学や研究機関等に所属する研究者の方に向けて作成された教材です。研究データ管理の場面に応じた12のテーマ別に分かれており、研究者自身が本教材によって必要な知識を得ることを想定しています。

研究前：

- 1. 外部資金の取得（学習時間：約5分）

外部資金の取得にあたり、研究データ管理との関連の観点から押さえておきたいポイントを学びます。

- 2. 申請書類（DMP）の作成（学習時間：約9分）

データ管理計画（DMP）の作成方法を学びます。

- 3. 所属機関のインフラ活用（学習時間：約6分）

研究データ管理を行う上で必要となる所属機関のインフラの活用について学びます。

2021年6月 正式運用開始

2022年9月 RDM教材内容改訂
(研究データ作業部会協力)

<https://lms.nii.ac.jp/>

現在の提供コンテンツ

【研究データ管理講座】

・「研究者のための研究データマネジメント」コース

・「研究データ管理サービスの設計と実践」コース

・「オープンサイエンス時代の研究データ管理」コース

【その他】

・情報セキュリティ講座「倫倫姫の情報セキュリティ教室」

1-3.今後の研究データ管理(RDM)教材

- 国内のニーズや事情に対応した教材
- 徐々に取組みが始まりつつある現場(リポジトリでの研究データの公開、研究データリテラシー教育、研究支援業務等)に即した教材



- 国内の研究データ管理関連の教育プログラム等の把握
- 「研究データ管理支援人材に求められる標準スキル」への対応 等

【作業部会員募集】 機関リポジトリ、リテラシー、研究支援等、様々な現場で活躍されている方、研究データに関心をお持ちの方等、多くの方に参加をお願いしたい

2-1.「研究データ管理事例集」の公開

- 大学ICT推進協議会研究データマネジメント部会 (AXIES-RDM部会) と連携し、RDM事例形成プロジェクトとして実施
- 2019-2021年度、プロジェクト参加機関と情報・意見交換等を行い、その成果として2022年9月に本事例集を公開

「研究データ管理事例集」 <https://doi.org/10.34477/0002000217>

【掲載内容】

- **研究データ管理支援**: 4件 (国立環境研究所、岐阜大学、理化学研究所、金沢大学)
- **研究データ公開・利活用等**: 5件 (理化学研究所、北海道大学 (2件)、名古屋大学、総合研究大学院大学)
- **利用者支援**: 3件 (国立環境研究所、名古屋大学、理化学研究所)
- **管理体制の構築**: 6件 (日本原子力研究開発機構 (2件)、沖縄科学技術大学院大学、東京工業大学、京都大学、九州大学)
- **事例の傾向分析**

2-2.国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査(2022)

調査期間(予定):2022年11月28日(月)~2022年12月28日(水)

調査対象機関:JPCOAR会員機関、AXIES参加機関及び国内の大学・研究機関

質問数/所要時間:全48問/約60分

回答方法:Googleフォーム経由での回答

【主な変更点】 ※質問番号は変更になる可能性があります

1)Q11(研究データ管理体制)及びQ12(研究データポリシー)の調査対象の明確化

前回はポリシーの策定率が想定より高く(17.6%)、いわゆる10年保存ルール等が含まれている可能性

2)Q18(研究データ管理サービス内容)の他に、Q19(研究データ管理サービス担当)を追加

前回は図書館によるサービスに限定しての質問だったため、全体像が見えにくかった

3)Q32(ストレージサービスの基本容量)の他に、Q29(必要と考える容量)を追加

各機関が必要とするストレージ容量を把握しているのか、どのくらいの容量が求められているのかを確認したい

4)すべてJPCOARからの依頼に変更

前回は調査依頼をJPCOAR・AXIESで分担したため、集計・分析が複雑に

※AXIES-RDM部会やNISTEPデータ解析政策研究室にもチェックしてもらい、文言等を調整

3.他機関との連携

1) 大学ICT推進協議会研究データマネジメント部会 (AXIES-RDM部会)

- ・RDM事例形成プロジェクトの実施: 参加機関同士の情報・意見交換、RDM事例集、RDM取組状況調査
- ・AXIES-JPCOAR連絡会

<https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/>

- ・イベント開催、RDM用語集作成、AXIES年次大会報告

2) 文部科学省科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) データ解析政策研究室

- ・RDM取組状況調査(分析等)

「日本の研究機関における研究データ管理(RDM)の実践状況」

<https://doi.org/10.15108/stih.00287>

3) 国立大学図書館協会 (JANUL) 資料委員会 オープンサイエンス小委員会

- ・定期的な意見・情報交換、イベントへの協力



AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会

home · event ▾ · project ▾

AXIES-JPCOAR

研究データ連絡会

連絡会について

[これからのイベント](#)

[これまでのイベント](#)

[実施中のプロジェクト](#)

連絡会について

研究データ管理(Research Data Management, RDM)とは、「研究の開始から終了までを通じ、どのような研究データを収集・生成するか、そのデータをどのように解析、保存、共有、公開するか、等を定め、これらを実践すること」です。オープンサイエンスの進展、研究活動の透明性の維持、といった様々な理由で、RDMの課題は、研究者と研究データを中心とし、学術分野、大学等学術機関、さらには政策や市民科学等、社会全体が関与する複雑な問題となっています。

「オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR) 研究データ作業部会」と「大学ICT推進協議会(AXIES) 研究データマネジメント部会」は、学術機関でのオープンサイエンスの推進と、研究データ管理体制の充実に取り組んできました。「AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会」は両団体が持つ共通の課題の発見と解決を促すことで、学術機関によるオープンサイエンス、研究データ管理体制の更なる発展を支援します。

オープンアクセスリポジトリ推進協会 研究データ作業部会
大学ICT推進協議会 研究データマネジメント部会